

—祝・新築— 北陸支部会館竣工式

新たな北陸支部会館は、令和3年12月16日に地鎮祭を執り行い、令和4年8月30日に完成した。三国船員会の歴史を引き継ぎ、日本海に面する支部として重要な役割を担うことから、旧北陸支部と同じ福井県坂井市三国町に建設する運びとなった

竣工式でお披露目

8月30日、新北陸支部会館が未永く堅固で安全であるよう竣工式では神事が執り行われ、熊谷勝明北陸支部長、齋藤洋中央執行委員、高橋健二中央執行委員が出席した。

会館は、伝統と歴史を感じ取れる街並みに溶け込むよう、北前船で栄えた三国湊の風景をコンセプトにデザインされた木造平屋建てで、目の前には三国サンセットビーチが広がり、日本海に沈む夕日を一望できる。

❖北陸支部の紹介

福井県を拠点に富山、石川県の沖合底曳網漁船28社、サンマ棒受け網漁船3社、中型イカ釣り漁船2社、冷凍・冷蔵運搬船2社を担当し、日々の業務にあたっています。支部のある三国町（福井県坂井市）は、福井県一の大河、九頭竜川の河口に位置し、多くの河川が合流することから、河川の船運が盛んで、また、日本海にも面していることから、越前地域の物資を輸送、集積して他の地域へ運ぶなど、古くから物流の拠点でありました。北前船が築いた歴史と文化、情緒が漂う三国町。観光名勝の国指定天然記念物「東尋坊」や神宿る島「雄島」もあります。日本海的好漁場が目の前に広がり、底曳網漁船で漁獲した越前ガニは、皇室に献上されることでも有名、訪れる機会があれば蕎麦とカニはぜひ味わってほしいと思います。

❖歴史

<江戸時代中期から明治時代>

北前船交易(大阪と北海道を物資輸送し、これを売買して差益を得る)がはじまると、三国町は廻船業に力を入れ始め、日本海側有数の北前船の寄港地として繁栄した。当時の賑わいは、残存するレトロな西洋建築や三国港突堤などの建造物によって伺い知ることができ、特に三国港付近は、歴史と文化の香り漂う老舗の和菓子店や提灯の店なども残っており、当時は全国屈指の賑わいをみせたと記録されている。

<明治時代から近年>

物流の中心が船から鉄道へ移行すると、賑わいは徐々に無くなりました。しかし近年は、当時の面影を残す街並みの価値が見直されて、街並みや建物の保全がなされ、さらに、空き家を利用したリノベーションによる店舗が要所各所に見られるようになり、レトロでノスタルジックな街並みや食を求めて観光客が訪れ往年の賑わいを取り戻しています。

<職人文化の残る町三国町>

・伝統和菓子

「酒まんじゅう」北前船の船乗り達から製法を学び、伝承されている

「鶯餅」一度食べたなら忘れないというほどの人気。三国神社山王の森で鳴く鶯より着想して命名した

・福井の伝統工芸品

「三国提灯(越前和紙)」北陸三大祭りのひとつ「三国祭り」には、各家庭の軒先に吊るされ、町の人々をつなぐ文化として残っており、200年以上の歴史がある

・蕎麦

「おろし蕎麦」辛味大根のおろし汁とダシを合わせた冷たい蕎麦。代々続く歴史ある蕎麦屋が健在